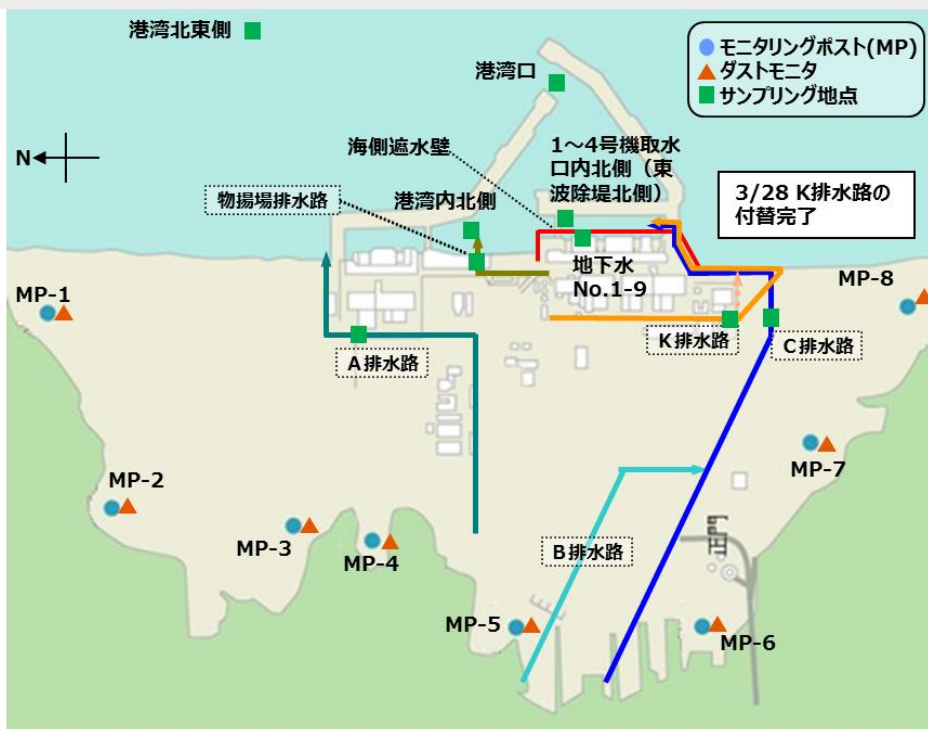
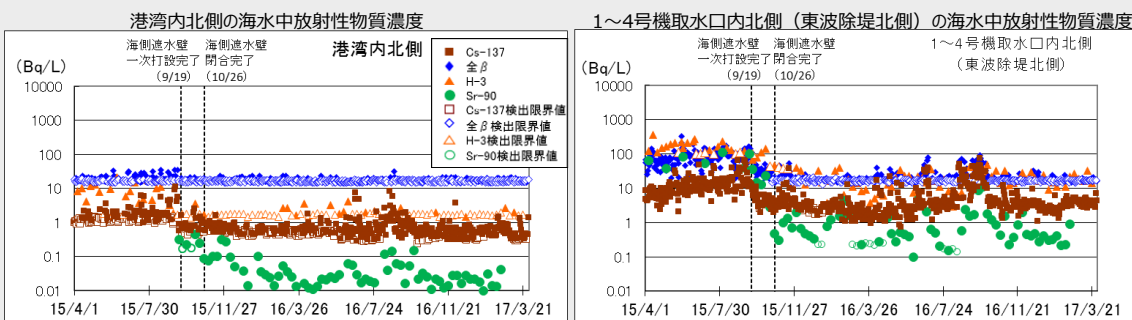


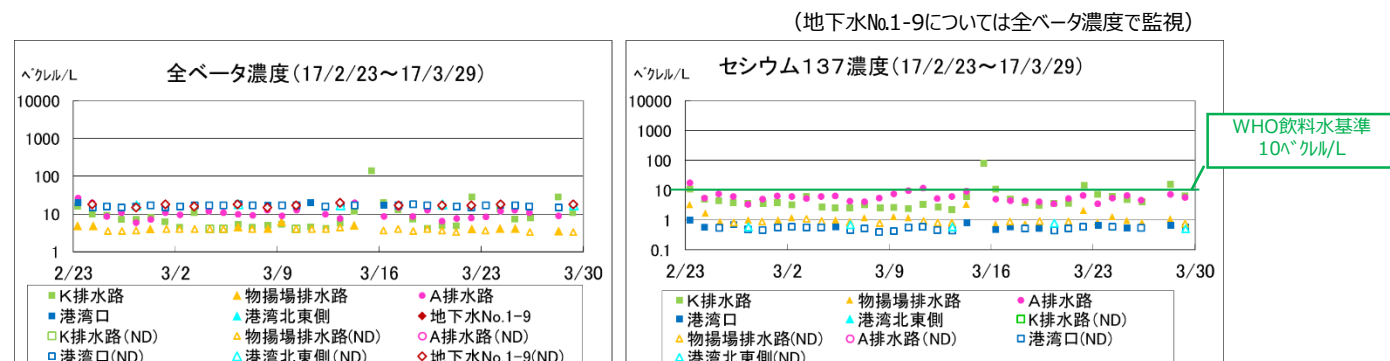
- 前回 (2月23日) 以降のデータ公開数は約10,500件
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約10,500件を公開しました。
- 1号機建屋カバー壁パネル取外し完了 敷地内ダスト (粉じん) 濃度は安定
1号機では、原子炉建屋カバー解体工事において、屋根パネル取外し (2015年10月5日) 以降、ダスト飛散防止対策として散水設備の設置、崩落屋根上の小ガレキ吸引、飛散防止剤散布などを経て、2016年9月13日より壁パネルの取外しを開始し、11月10日に最終18枚の取外しが完了し、オペロ調査を実施しています。これまで、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト濃度に有意な変動は確認されていません。今後も、飛散抑制対策の実施とともにダスト濃度の監視をしっかりと継続していきます。
- 港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定
先月以降、降雨が少ないこともあり、港湾内海水の放射性物質濃度は、低い濃度を維持しています。
なお、2月16日に、港湾内北側に係留しているメガフロート内の1区画で、貯留水の水位が上昇しているのを確認しましたが、その後の調査で、北西側の下部3箇所に損傷を確認し、補修を完了しました。貯留水のセシウム濃度は低濃度であり、港湾内の放射性物質濃度に有意な変動は確認されておりません。
引き続き港湾内の水質を監視していきます。



データ採取位置図 (右のA、B、C等に対応するポイント)

A 水 (海水、排水路、地下水等)

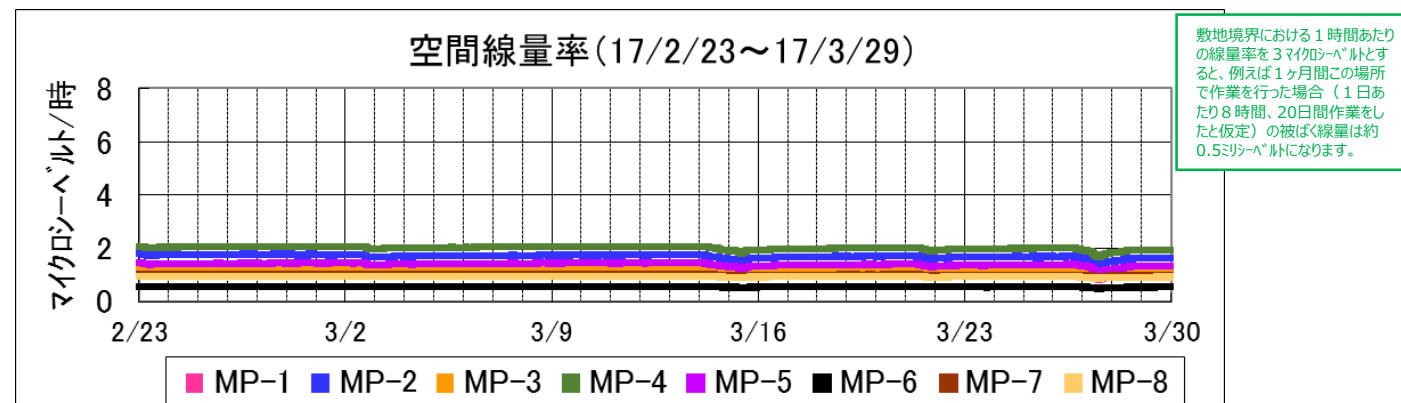
- 1月から2月は降雨が少なく、排水路の排水も低濃度で安定。
- セシウム137は、概ねWHO (世界保健機関) 飲料水基準を下回った。



- 全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。カリウム、セシウム、ストロンチウム等が含まれる。
- 海水の全ベータについては、天然の放射性カリウムが約12ベクレル/L含まれている。
- (ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。
- 3/15, 3/27は悪天候のため欠測。

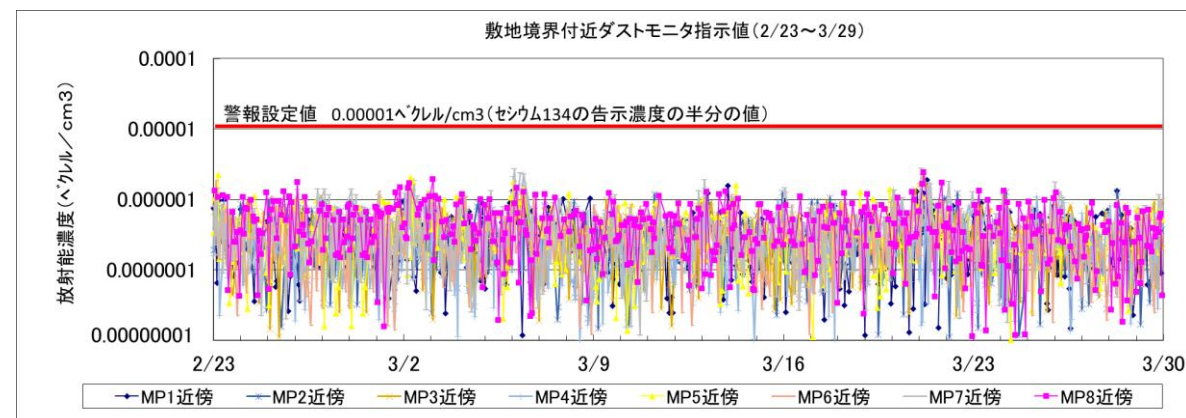
B 空間線量率 (測定場所の放射線の強さ)

- 降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。

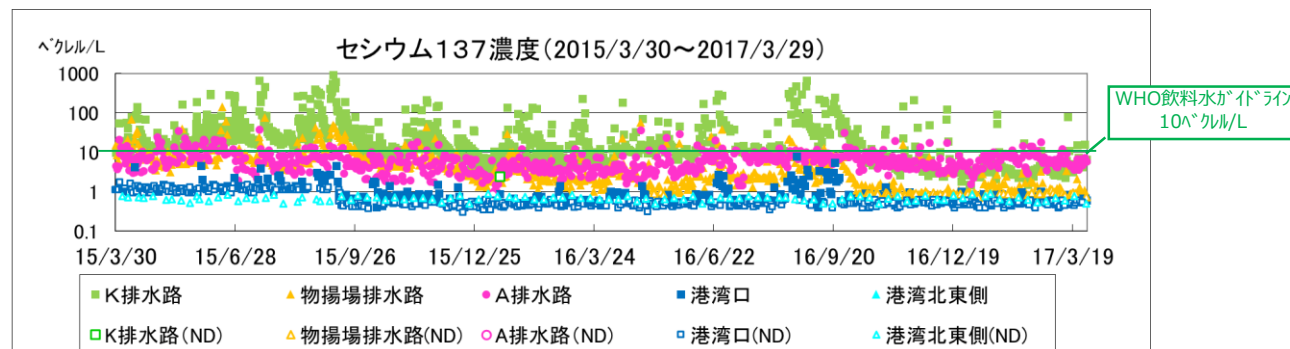
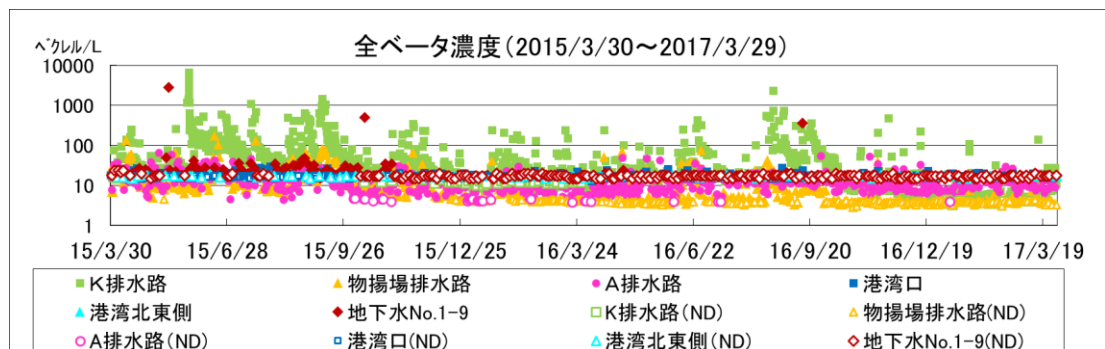


- 告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

放射線データの概要 過去の状況

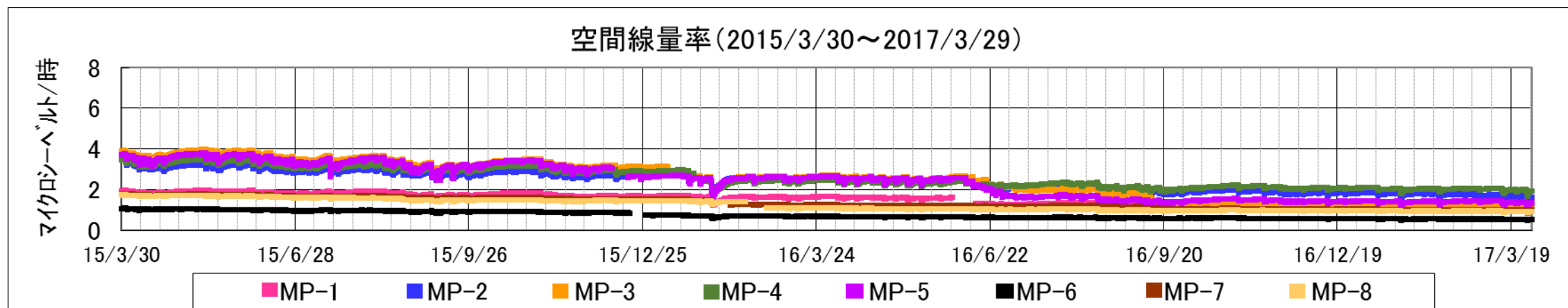
A 水（海水、排水路、地下水等）

- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未満。
- ・K排水路は降雨時に高い傾向。清掃等の対策を実施中。2016年3月28日に排水先の港湾内付替えを完了。



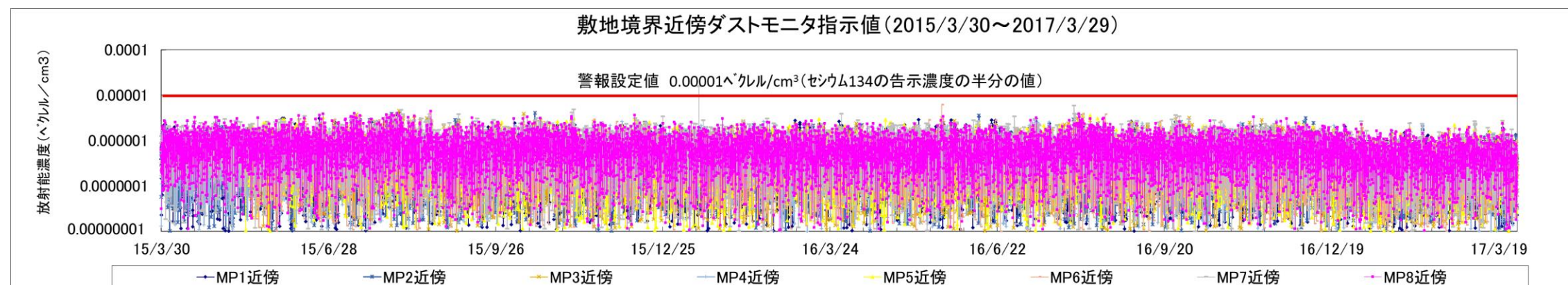
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の半分以下に低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



・MP3,5,6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

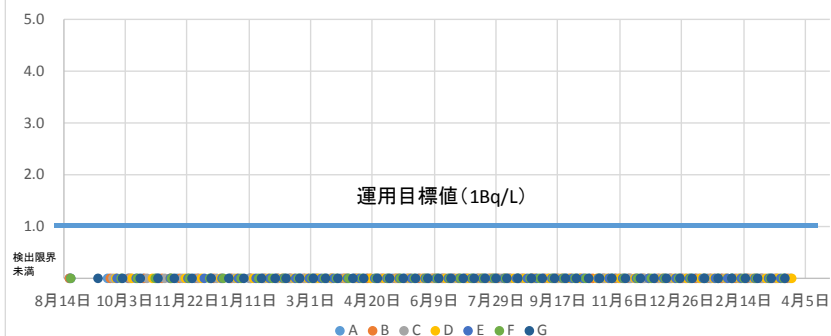
サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

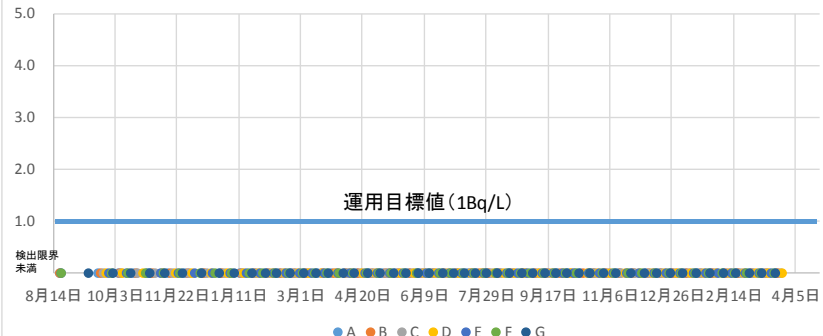
- 一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果は、いずれも運用目標値を下回っていることを確認しました。
- 同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2017年3月28日までに合計362回、297,660m³を排水しました。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）

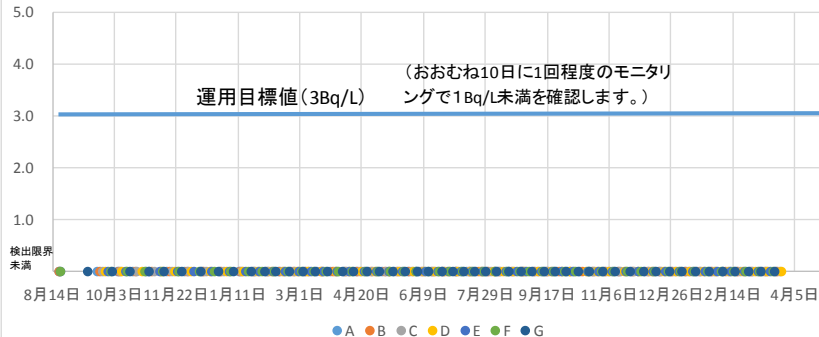
セシウム134濃度 (Bq/L)



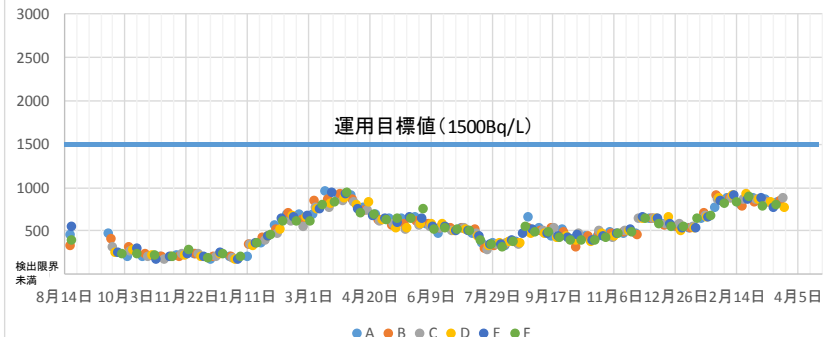
セシウム137濃度 (Bq/L)



全ベータ濃度 (Bq/L)



トリチウム濃度 (Bq/L)



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommission/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd>をご覧ください。

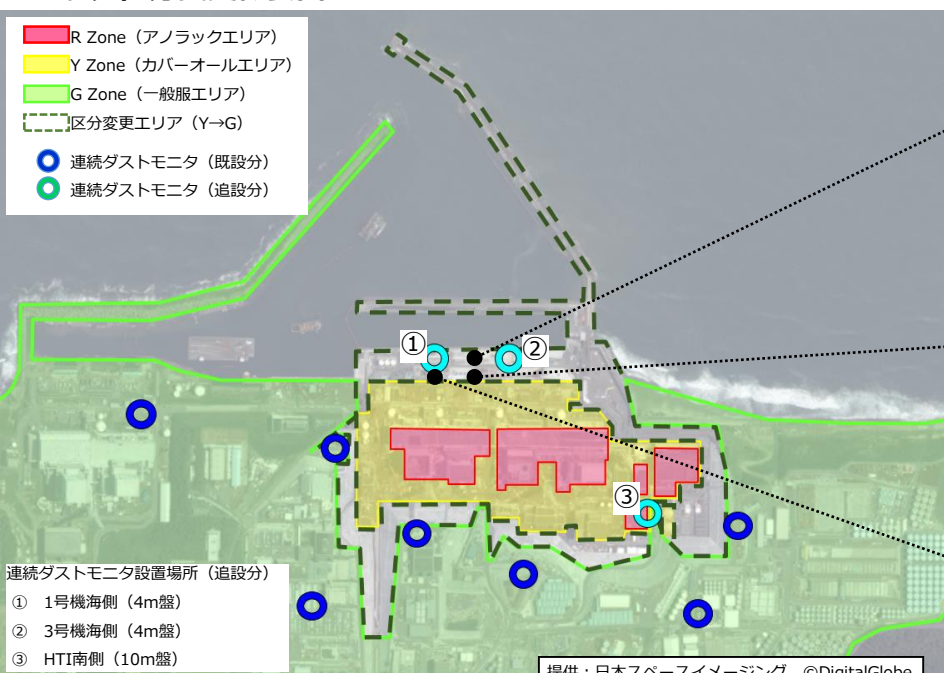
ガレキ撤去、フェーシングによる線量低減にともなう一般服エリアの拡大について

- 線量低減と排水路や地下への雨水の浸透を減らす目的で「4m盤」および「1~4号機法面」のガレキ撤去やフェーシングを進めてきた。
- その結果、地表面からの放射性物質の舞い上がりや身体汚染のリスクが低減されたことから、作業員の過剰装備による身体的負担を軽減することによる作業の安全性と作業効率の向上を図るため、本日（3/30）から当該エリアをYellow Zone→Green Zone（一般服エリア）へ区分を変更した。
- これにより、1F構内の敷地面積の約95%（区分変更前：90%）が一般作業服エリアとなった。
- また、作業員がYellow ZoneとGreen Zoneの境界を識別できるよう標識等の現場掲示を行うとともに、万が一のダスト上昇を早期に検知するために連続ダストモニタを追加で3箇所設置した。測定した空气中放射性物質濃度は既設の連続ダストモニタと比較しても同程度であり、マスク着用基準を下回っていることを確認。
- 引き続き、ガレキ撤去やフェーシングを進めるとともに、作業の進捗なども踏まえ一般作業服エリアを拡大していく。

◆フェーシング作業の流れ◆



◆エリア区分変更概要図◆



◆空气中放射性物質濃度の推移◆

